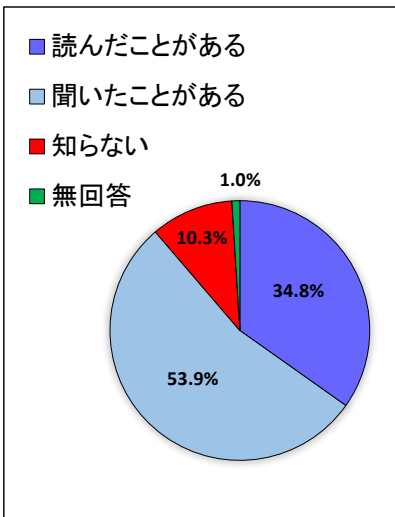


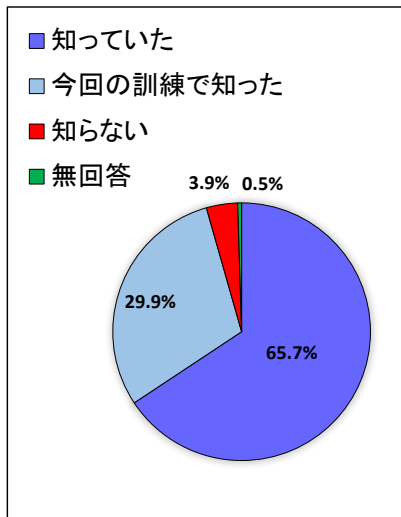
## 2 参加住民・参加要員アンケート結果（原子力防災訓練）

【住民アンケート結果】訓練参加者225人、アンケート回答者204人（伊方町129人、八幡浜市33人、大洲市16人、西予市26人）

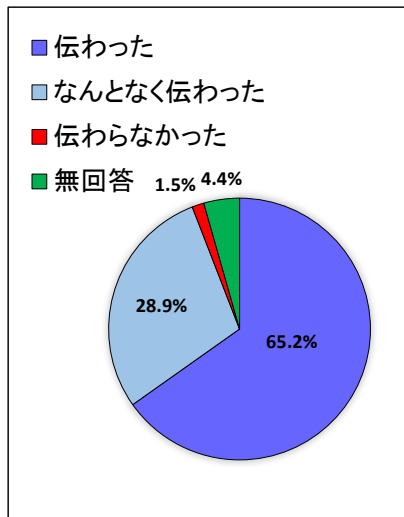
Q1 愛媛県広域避難計画を知っていますか



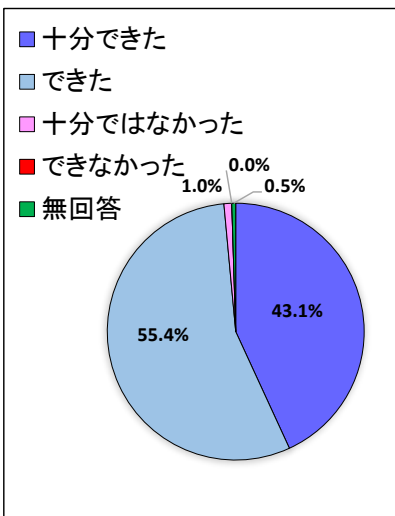
Q2 原子力災害時の避難方法を知っていますか



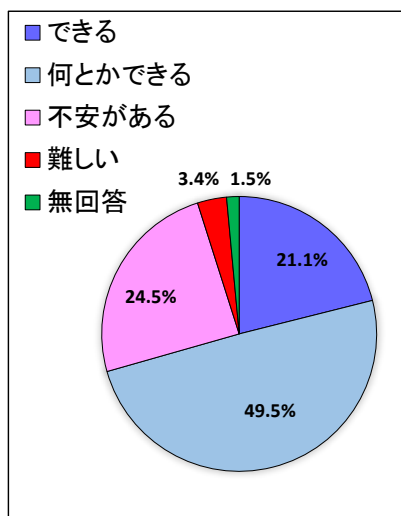
Q3 住民広報は確実に伝わりましたか



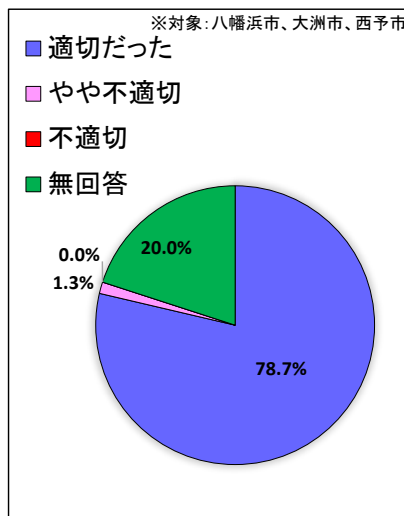
Q4 避難はスムーズに行えましたか



Q5 訓練を体験して避難は行えると感じましたか



Q6 安定ヨウ素剤の配布、服用は適切に行えましたか



### 【住民からの主な意見】

- ・今回は誘導してもらったからできたけど、自分の判断でということになれば難しい。
- ・実際に避難を行ってみて、経路、所要時間、除染作業の一連の流れをよく理解できた。
- ・避難生活は男女共同だが、訓練では女性の参加が少ない。
- ・大きな地震があった時、道が崩れてしまったらどうすればいいのかわからない。
- ・車が混雑したら不安がある。
- ・屋内で放射線がどれだけ防げるのか啓蒙活動することが大切。
- ・風向きにより放射性物質の飛ぶ方向が違うので不安。
- ・高齢者がスムーズに避難できるか不安。

### 【参加要員からの主な意見】

- ・安定ヨウ素剤の服用効果がないとされている40歳以上の方の参加が多いので、児童・生徒などの訓練参加を呼びかけてはどうか。
- ・UPZについても道路寸断を想定した訓練を実施すべきである。
- ・避難経路所や広域避難所において正確な情報を住民へ広報する必要がある。
- ・原子力災害時、住民はパニックになるので、職員が正しい知識を備えて、正確な情報を速やかに発信する必要がある。
- ・原子力防災担当以外の職員でも住民避難に同行できるよう、同行者マニュアルのブラッシュアップ等を通じて、習熟を図りたい。
- ・災害状況、行程等計画に沿った行動・経路の確認にとどまるため、住民にとって当事者意識が軽薄になっているのではないかと感じる。
- ・自家用車での避難訓練も実施してはどうか。
- ・もう少し悪い事態を想定した訓練やブラインド訓練を検討してはどうか。
- ・学校での屋内退避訓練について、教員向けの指導要領や児童・生徒向けのチラシ等を配布し、訓練の必要性を説明する必要がある。
- ・二次避難先への避難訓練も実施すべきである。